



令和6年度

学校評価報告書

帝塚山小学校



学校法人帝塚山学園

令和6年度学校評価について

帝塚山小学校は、令和6年度の教育活動及びその他の学校運営の状況について、学校評価を実施しました。

学校評価は、本校児童とその保護者を対象とした各アンケート結果、育友会等との懇談会で寄せられた御意見等を活用のうえ自ら評価を行い、さらにその結果について学校関係者による評価を行いました。

このたびの結果を踏まえ、更なる教育水準の向上を目指して、教育活動及び学校運営の改善工夫に組織をあげて継続的に取り組んでいく所存です。

帝塚山小学校
校長 野村 至弘

令和6年度 学校評価

1. 総括

学 校 名	帝塚山小学校
建学の精神	社会に有為な人材を育成する
重点目標 (教育目標)	「豊かな経験と学力で生きぬく力を育む教育」 “「根っこを鍛える教育」を目指す”
前年度の成果と課題	[成果] 令和5年度、コロナ禍は落ち着き、細心の注意を払いながら行事や活動をほぼ通常通り実施することができた。これにより、運動会や音楽祭、国内留学など、本校の主な行事を開催することができた。また、夏合宿については、この機会に内容を再検討し、今後持続可能なものにしていく内容に吟味し、全学年で実施することができた。ただ、夏休み中の開催で異常に暑い日が多く、熱中症対策に留意せざるを得ないところがあった。また、コロナの後、インフルエンザの流行があり、感染症に対してのより一層の予防意識が必要であることを感じた。今後、より一層の体調管理が必要であることを痛感した。 一方、タブレット端末を授業で活用する2年目となり、タブレット端末を3～6年生全員が持ち、授業で有効活用する実践を積み重ねることができた。これに向け、教員の研修を積極的に実施し、学習の個別最適化をめざして、様々な取り組みができた。この結果、学校と家庭の両面において、タブレットを有効活用し、学習を進めることができるようになってきた。やむを得ず学級・学年を閉鎖した場合でも、タブレットを使ったオンライン授業や課題学習をすることにより、児童の学習を保障することも可能となった。 [課題] コロナ禍が落ち着いたとはいえ、インフルエンザ等感染症には十分留意しながら、安全安心な学校運営を目指すことが大切である。また、環境の変化により、気温が高い日が多くなり、感染症対策と併せて、暑さ対策にも留意しなければならない現状となっている。このような環境において、夏合宿をはじめとする本校の行事の内容を再検討し、大切な教育的価値を維持しつつも、新しい時代に合わせた内容の見直しが必要になってきている。 また、タブレット導入3年目にあたり、令和6年度は、さらに有効活用できるよう、教員の資質向上を図るとともに、ICT学習の環境整備をより一層進めていかなければならないと考える。 大切な入学生募集活動については、地道な広報活動を積極的に続ける一方、ホームページをはじめとするICT機器を活用して、本校の魅力を広く伝える努力を始める必要がある。併せて、入学出願について、Web出願を採り入れ、出願を考えている保護者層の利便性向上を図り、出願数増をめざす。

2. 自己評価

評価は4段階【A：十分である（よくできた）、B：ほぼ十分である（できた）、C：あまり十分でない（あまりできなかった）、D：改善を要する（できなかった）】

評価項目	具体的目標・方策 及び評価指標 ※（ ）内は評価指標	自己評価結果		評価結果の分析 (評価の観点、理由)	今後の課題・改善方策
1 建学の理念に基づく学校教育目標の共有化	① 建学の精神に基づく学校教育目標を教員組織内で共通理解し、前年度の反省を踏まえた新たな到達目標を確実に共有するとともに、実行するための校務分掌を構築する。 (校務分掌表、各部、委員会報告書類)	A	A	① 建学の精神に基づく学校教育目標を教員組織内でしっかり共通理解するための会議を実施。到達目標を確実に共有する機能的な校務分掌を構築し、運用した。	① 建学の精神に基づく学校教育目標を教員組織内で共通理解し、前年度の反省を踏まえた新たな到達目標を確実に共有するとともに、実行するための校務分掌を構築する。
	② 教育目標実現のために、教員組織で検討・研修を重ね、育友会総会及び保護者会で説明の機会を設けるとともに、学校だより、学級通信、校長室だより等を通じて具体的な取組を伝える。 (検討資料、研修資料、全学年保護者会資料、学校だより、校長室だより、学級通信)			② 教育目標実現のために、教員組織で検討・研修を重ねた。保護者には学校だより、学級通信、校長室だより等を通じて具体的な取組を伝えた。	② 教育目標実現のために、教員組織で検討・研修を重ね、育友会総会及び保護者会で説明の機会を設けるとともに、学校だより、学級通信、校長室だより等を通じて具体的な取組を伝える。
2 ICT教育を推進し、教育の個別最適化をめざす	① タブレット端末導入3年目にあたり、デジタル教材、オンライン教材の有効活用に向け、各教科において現状分析と研修を図る。 (研修計画案、実績報告会)	A	A	① タブレット端末導入3年目にあたり、情報教育推進委員会が中心になり、デジタル教材、オンライン教材の研究と研修を実施した。学年ごと、教科ごとに、実績報告会を実施、情報を共有した。	① タブレット端末導入3年目にあたり、デジタル教材、オンライン教材の有効活用に向け、各教科において現状分析と研修を図る。
	② 各教科における、タブレット端末活用実績に基づき、有効活用を積極的に推進し、効果を検証する。 (タブレット活用実績、検証資料)			② 情報教育推進委員会が中心になり、タブレット端末活用法研究を推進した。学年ごとの目標に沿って、有効活用を進め、効果を検証した。	② 各教科における、タブレット端末活用実績に基づき、有効活用を積極的に推進し、効果を検証する。
	③ 各学年での学力定着を強化し、児童の学力向上を図る。児童所有のタブレットをはじめ、ICTを有効活用した学習の個別最適化を目指す。 (タブレットを活用した個別最適化学習の実施、検証)			③ 児童のさらなる学力向上を図るため、ロイノートを本格導入し、学年ごとにタブレットを有効活用した学習の個別最適化を目指した。	③ 各学年での学力定着を強化し、児童の学力向上を図る。児童所有のタブレットをはじめ、ICTを有効活用した学習の個別最適化を目指す。
	④ 本校独自の情報科カリキュラムにおけるプログラミング学習を効果的に実践し、プログラミング的思考の定着を図る。また、各学年の系統的な指導を実践する。 (情報科カリキュラム)			④ 本校独自の情報科カリキュラムにおけるプログラミング学習を効果的に実践し、プログラミング的思考の定着を図った。	④ 本校独自の情報科カリキュラムにおけるプログラミング学習を効果的に実践し、プログラミング的思考の定着を図る。また、各学年の系統的な指導を実践する。
	⑤ 情報科による「プログラミング教育」に基づき、5・6年生全員にその発展教育として前年度に引き続き「出張ロボット体験授業」を実施する。また、希望者によるロボット教室を年間計画のもと開講し、WRO (World Robot Olympiad) への出場を目標に、技術力の向上を図る。低学年はアフタースクールと連携し、希望者体験教室を開催する。 (発展学習として「出張ロボット体験授業」)			⑤ 5・6年生全員を対象に「出張ロボット体験教室」を実施した。また、希望者によるロボット教室を年間計画のもと開講。奈良県大会で優勝し、WRO (World Robot Olympiad) 全国大会に出場した。低学年はアフタースクールと連携し、希望者体験教室を開催した。	⑤ 情報科による「プログラミング教育」に基づき、5・6年生全員にその発展教育として前年度に引き続き「出張ロボット体験授業」を実施する。また、希望者によるロボット教室を年間計画のもと開講し、WRO (World Robot Olympiad) への出場を目標に、技術力の向上を図る。低学年はアフタースクールと連携し、希望者体験教室を開催する。

評価項目	具体的目標・方策 及び評価指標 ※（ ）内は評価指標	自己評価結果		評価結果の分析 (評価の観点、理由)	今後の課題・改善方策
3 国際理解教育 の充実	① 4技能強化と授業との連携を意識した英語モジュール学習を計画的に実施する。また、学習内容の充実を図る。 (英語科モジュール実施計画)	B	B	① 英語科主導による英語モジュール学習の計画を立案。学級毎に実施し、学習内容の充実を図った。	① 4技能強化と授業との連携を意識した英語モジュール学習を計画的に実施する。また、学習内容の充実を図る。
	② 本校の特徴である国内留学について、4学年を系統的に捉え、内容の充実を図る。帝塚山大学との連携により、効果的でリスクの少ない行事の在り方を追及し、対外的に発信する。また、年間英語カリキュラムにおいて、より効果的に位置づける。発達段階に応じて会話力が向上するよう、4年間のプログラムをさらに強化する。 (実施後児童アンケート及び保護者宛実施報告書)			② 国内留学は、夏休み中の帝塚山大学東生駒キャンパスを借用し、日常を離れた広々とした会場にて、より効果的でリスクの少ない行事として実施した。3～6年生4学年を系統的に捉え、内容の充実を図った新たな系統的プログラムを構築した。英語圏での実際の生活を想定し、英語の学習だけでなく、英語をツールとした様々な活動や学習をカリキュラムとして実施した。	② 本校の特徴である国内留学について、4学年を系統的に捉え、内容の充実を図る。帝塚山大学との連携により、効果的でリスクの少ない行事の在り方を追及し、対外的に発信する。また、年間英語カリキュラムにおいて、より効果的に位置づける。発達段階に応じて会話力が向上するよう、4年間のプログラムをさらに強化する。
	③ 国際理解の礎となる日本文化への理解が深められるような授業や校外学習を実施し、外部に発信できる情報を身につける。 (外部に発信できる情報として日本文化の体験学習)	A		③ 外部に発信できる材料として、海外に日本文化や伝統文化、伝統工芸を発信する計画を策定した。海外との交流機会がなく、実現にはいたらなかったが、和太鼓の体験や大和文華館見学を通して、伝統文化に触れ、そのことを保護者に知らせた。	③ 国際理解の礎となる日本文化への理解が深められるような授業や校外学習を実施し、外部に発信できる情報を身につける。
4 特別活動・体験 教育の充実を図り、ESD教育の展開をめざす	①-1 「本物にふれる教育」を定着させるため、各教科における校外学習・現場実習を一層充実させる。また、その効用を広く保護者や外部に広報し、本校教育の特徴をはっきり印象付ける。 (ホームページ、学校だより)	A	A	①-1 「本物にふれる教育」を目指し、体験学習や出張授業などを積極的に採り入れた。また、全学年で夏合宿を開催し、内容についても、この機会に検討した結果、特に3・4年生の内容を大きく改善した。	①-1 「本物にふれる教育」を定着させるため、各教科における校外学習・現場実習を一層充実させる。また、その効用を広く保護者や外部に広報し、本校教育の特徴をはっきり印象付ける。
	①-2 外部講師出張授業を積極的に計画実施する。また、外部機関と連携し、環境教育を一層推進することにより、ESD教育の展開を目指す。 (全学年での外部講師出張授業を年間最低1回)	A		①-2 外部講師出張授業を積極的に計画実施し、コロナ禍前の水準に戻した。また、奈良市や外部機関と連携し、環境教育を一層推進することにより、ESD教育を展開した。	①-2 外部講師出張授業を積極的に計画実施する。また、外部機関と連携し、環境教育を一層推進することにより、ESD教育の展開を目指す。
	② 「社会に開かれた教育課程」の実現に向けて、教科・学年の枠を超えたカリキュラムマネジメントを行い、外部講師出張授業を積極的に計画実施する。また、卒業生や保護者によるキャリア教育を推進する。 (卒業生や保護者によるキャリア教育、ホームページ、学校だより)	A		② 「社会に開かれた教育課程」の実現に向けて、外部講師出張授業を積極的に実施した。出張授業内容に応じて、カリキュラムを学年間で調整した。また、卒業生によるキャリア教育を実施した。	② 「社会に開かれた教育課程」の実現に向けて、教科・学年の枠を超えたカリキュラムマネジメントを行い、外部講師出張授業を積極的に計画実施する。また、卒業生や保護者によるキャリア教育を推進する。

評価項目	具体的目標・方策 及び評価指標 ※（ ）内は評価指標	自己評価結果		評価結果の分析 (評価の観点、理由)	今後の課題・改善方策
5「帝塚山で学び、育つ」ことを意識した学園各中学校園の連携強化・内部進学率の推進	① 帝塚山大学との連携を深める。教育学部とは、情報交換を積極的に行い、授業研究及び教育サポーターを充実させる。現代生活学部食物栄養学科とは、食育、健康教育を推進する。また、全学教育開発センターの協力を受け、教育サポーター活動をより充実させるほか、心理学部からも学生を受入れ、より連携を深める。 (帝塚山大学学生の教育サポーターを定期的に実施)	A	B	① 帝塚山大学教育学部との相互の連携を深めた。特に、学生の現場経験を進めるために、教育サポーターを積極的に募集。定期的な参加により、指導の充実を図ることができた。また、現代生活学部食物栄養学科との連携により、食育、健康教育を推進した。	① 帝塚山大学との連携を深める。教育学部とは、情報交換を積極的に行い、授業研究及び教育サポーターを充実させる。現代生活学部食物栄養学科とは、食育、健康教育を推進する。また、全学教育開発センターの協力を受け、教育サポーター活動をより充実させるほか、心理学部からも学生を受入れ、より連携を深める。
	② 帝塚山中学校・高等学校との生徒児童間及び教員間での教育連携の推進を図る。 また、内部進学推薦制度を有効に活用するために、制度の啓発を進め、内部中学出願率、進学率の向上を目指す。教科指導面における小学校と中学校間の情報交換を推進し、効果的な小中連携を実現する。 (教科間における小学校と帝塚山中中学校間の情報交換。内部進学率60%)			② 帝塚山中学校・高等学校との生徒児童間の連携は十分できなかったが、教員間では、教育内容の情報交換などを行った。内部中学出願率、進学率は昨年並み。	② 帝塚山中学校・高等学校との生徒児童間及び教員間での教育連携の推進を図る。 また、内部進学推薦制度を有効に活用するために、制度の啓発を進め、内部中学出願率、進学率の向上を目指す。教科指導面における小学校と中学校間の情報交換を推進し、効果的な小中連携を実現する。
	③ 帝塚山幼稚園との算数、英語などの授業連携を推進するとともに、教員交流を積極的に行い、幼稚園小学校両校園の教育内容の相互理解を深める。 また、帝塚山幼稚園との園児児童間交流を積極的に進め、連携を図る。 (教員交流、園児児童交流の実施、ホームページ、学校だより)	A		③ 帝塚山幼稚園と算数、英語の教員交流を実施したほか、幼稚園小学校両校園の教育内容の相互理解について、管理職を中心に交流を深めた。 また、帝塚山幼稚園との園児児童間交流を開催した。	③ 帝塚山幼稚園との算数、英語などの授業連携を推進するとともに、教員交流を積極的に行い、幼稚園小学校両校園の教育内容の相互理解を深める。 また、帝塚山幼稚園との園児児童間交流を積極的に進め、連携を図る。
	④ 総合学園としての内部進学率の在り方について共通認識を持つ。令和5年度の内部進学率を踏まえ、進学制度について、中学校管理職と議論を重ね、少子化に対応できる新制度の方向性と小学校の学習カリキュラムの整備及び基礎学力の向上を目指す。また、進路指導部を中心に、内部・外部両方向にむけた進路指導の実現を図り、児童それぞれの特性に応じた進学指導・助言を充実させる。 (児童それぞれの特性に応じた進学指導・助言。家庭との連携による内部進学率向上。内部進学率(前年比増))	A		④ 小学校から帝塚山中学校への進学制度について、中学校管理職と議論を重ね、現制度の再確認を実施した。小学校の学習カリキュラムの整備を進め、基礎学力の向上を目指した。また、保護者の要望に応えるため、進路指導部を中心に、内部・外部両方向にむけた進路指導の実現を図り、児童それぞれの特性に応じた進学指導・助言を充実させた。	④ 総合学園としての内部進学率の在り方について共通認識を持つ。令和5年度の内部進学率を踏まえ、進学制度について、中学校管理職と議論を重ね、少子化に対応できる新制度の方向性と小学校の学習カリキュラムの整備及び基礎学力の向上を目指す。また、進路指導部を中心に、内部・外部両方向にむけた進路指導の実現を図り、児童それぞれの特性に応じた進学指導・助言を充実させる。

評価項目	具体的目標・方策 及び評価指標 ※（ ）内は評価指標	自己評価結果		評価結果の分析 (評価の観点、理由)	今後の課題・改善方策
6 人権教育・道徳教育を強化し人間性を築く	① 児童の人権意識を高めるには、教員組織の共通理解に基づく日々の生活指導が重要であるという認識のもと、規範意識を推進し、多様性を認める人権の新しい価値観の育成に努める。 (人権委員会資料、ホームページ、学校だより、保護者説明資料)	A	A	① 人権委員会の主導のもと、児童の人権意識を高めるために日々の生活指導を重視し、人権学習を学期に1回は実施した。また、道徳の学習内容の充実を図り、新しい価値観の育成に努めた。	① 児童の人権意識を高めるには、教員組織の共通理解に基づく日々の生活指導が重要であるという認識のもと、規範意識を推進し、多様性を認める人権の新しい価値観の育成に努める。
	② 年間計画に従った道徳教育を実施すると共に、クラスの実情に応じた授業を構成し実践することにより、普遍的な人間性の育成を目指す。学習の成果を学年ごとに持ち寄り、学習内容についての検証を行う。 (学期ごとの道徳教育目標及び実践報告)	A		② 年間計画に従った道徳教育目標を学期ごとに設定。クラスの実情に応じた授業を実践した。またその内容を集約し、全教員で共有するとともに、検証を行った。	② 年間計画に従った道徳教育を実施すると共に、クラスの実情に応じた授業を構成し実践することにより、普遍的な人間性の育成を目指す。学習の成果を学年ごとに持ち寄り、学習内容についての検証を行う。
7 学校評価の実質化	① 保護者アンケートの集計結果・内容について検討し、その分析結果を職員会議で共有する。改善点や今年度の課題を教職員で共通認識し、問題点の改善、解決を図る。 (保護者アンケートの結果及び分析資料)	A	A	① 昨年度末に実施した保護者アンケートの集計結果・内容について検討。その分析結果を活用して自己評価を教職員で共通認識し、問題点の改善、解決を図った。	① 保護者アンケートの集計結果・内容について検討し、その分析結果を職員会議で共有する。改善点や今年度の課題を教職員で共通認識し、問題点の改善、解決を図る。
	② 学校関係者評価委員会の評価結果を教職員に周知徹底し、学校運営の改善を図る。 (学校関係者評価)	A		② 4月19日に学校関係者評価委員会を開催。その評価結果を踏まえ、学校運営の改善を図った。	② 学校関係者評価委員会の評価結果を教職員に周知徹底し、学校運営の改善を図る。
8 教員評価の実施推進	① 各教員が掲げた年度重点目標を踏まえ、中間期面接、学年末面接を実施し、各自の目標達成状況及び進捗状況を確認する。 (各自の重点目標達成状況及び進捗状況)	A	A	① 各教員が掲げた年度重点目標を集約し、中間面談、学年末面談を通じて各自の目標達成状況及び進捗状況を確認した。	① 各教員が掲げた年度重点目標を踏まえ、中間期面接、学年末面接を実施し、各自の目標達成状況及び進捗状況を確認する。
	② 組織全体としての意識向上を図り、学校運営を改善するため、教員自己評価の内容を教員組織内で共有し、全体の課題の認識を目指す。 (職員検討会資料)	A		② 教員自己評価の内容を教員組織内で共有し、全体の課題の認識を図った。	② 組織全体としての意識向上を図り、学校運営を改善するため、教員自己評価の内容を教員組織内で共有し、全体の課題の認識を目指す。
9 募集活動・広報活動の強化	① 総合学園のメリットを最大限に広報するため、プロジェクトチームを編成し、広報の強化及び入学募集定員の充足を図る。コロナ禍で得た広報活動経験を活かし、各家庭に正確で新しい情報を届けることができるように、SNS等を活用し、効果的な広報活動を進める。また、出願手続きのオンライン化を目的にWEB出願システムを導入する。 (ホームページ、担当制度による説明会・体験会、入学募集定員充足、WEB出願システム)	A	A	① 各家庭に正確で新しい情報を届けることができるように、ホームページを充実するなど、効果的な広報活動を進め、総合学園のメリットを最大限に広報し、入学募集定員の充足を図った。入学志願者は昨年実績より増えた。	① 総合学園のメリットを最大限に広報するため、プロジェクトチームを編成し、広報の強化及び入学募集定員の充足を図る。コロナ禍で得た広報活動経験を活かし、各家庭に正確で新しい情報を届けることができるように、SNS等を活用し、効果的な広報活動を進める。また、出願手続きのオンライン化を目的にWEB出願システムを導入する。

評価項目	具体的目標・方策 及び評価指標 ※（ ）内は評価指標	自己評価結果		評価結果の分析 (評価の観点、理由)	今後の課題・改善方策
9 募集活動・広報活動の強化	② 幼児教室や外部幼稚園にて体験授業、説明会、教育講演会をさらに積極的に開催し、教育方針・教育内容の理解を深めていただくよう、内容の充実を図る。 (外部幼稚園・幼児教室での広報活動の機会を増加)	A	A	② 幼児教室や外部幼稚園にて体験授業、説明会、教育講演会を積極的に開催。新しい対象園を開拓し、昨年度より回数・内容ともに向上した。	② 幼児教室や外部幼稚園にて体験授業、説明会、教育講演会をさらに積極的に開催し、教育方針・教育内容の理解を深めていただくよう、内容の充実を図る。
	③ 在校生保護者や卒業生に協力を仰ぎ、本校の教育を体験して感じた魅力を広く外部に発信し、「帝塚山教育」の理解をより深めていただく。 (在校生保護者や卒業生の声を集めた資料)	A		③ 卒業生保護者の会の活動が再開され、在校生保護者や卒業生を通じての本校の魅力の発信を行った。	③ 在校生保護者や卒業生に協力を仰ぎ、本校の教育を体験して感じた魅力を広く外部に発信し、「帝塚山教育」の理解をより深めていただく。
10 学校リスクの対策強化・保健衛生管理の徹底	① 事件・事故の未然防止に向け、安全対策の徹底と個人情報、守秘義務の徹底を図る。また、保護者に対する情報セキュリティやマナーなどの啓発活動を充実させるとともに、いじめ防止対策アプリ「スタンドバイ」システムを活用し、問題点を教員組織で共通認識する。 (防災訓練計画案、校長室だより、防災訓練マニュアル、ホームページ、学校だより)	A	A	① 事件・事故の未然防止に向け、安全対策の徹底と準備について、職員会議において周知徹底し、教職員の意識向上を図った。 また、保護者に対する情報セキュリティやネットマナー等の啓発活動については、文書を通じて実施した。いじめ防止対策アプリ「スタンドバイ」システムを活用し、問題点を教員組織で共通認識した。	① 事件・事故の未然防止に向け、安全対策の徹底と個人情報、守秘義務の徹底を図る。また、保護者に対する情報セキュリティやマナーなどの啓発活動を充実させるとともに、いじめ防止対策アプリ「スタンドバイ」システムを活用し、問題点を教員組織で共通認識する。
	② 児童の保健衛生管理を一層向上させるため、児童生活部を中心に安全・健康対策の徹底を図り、内容を検証する。また、感染症対策(新型コロナ、インフルエンザ等)に向けて効果的な予防策を推奨し、感染症の予防に努める。 (防災訓練(月1回)、安全・健康計画、学校だより、ホームページ、保健だより)	A		② 月1回の防災訓練を実施した。また、児童の保健衛生管理を一層向上させるため、保健体育部が中心となり、安全・健康計画を立案。内容の徹底を図り、感染症対策(新型コロナ、インフルエンザ等)に向けて効果的な予防策を推奨し、感染症の予防に努めるとともに保健だよりで周知した。	② 児童の保健衛生管理を一層向上させるため、児童生活部を中心に安全・健康対策の徹底を図り、内容を検証する。また、感染症対策(新型コロナ、インフルエンザ等)に向けて効果的な予防策を推奨し、感染症の予防に努める。
11 研究・研修の推進	① 新しい授業作りを進めるために、私立小学校連合会の研修活動や他校との交流を積極的に進め、最新の情報収集や教員交流に努める。 (校内公開授業各学期1回、連合会の研修会)	A	A	① 連合会の研修活動がほぼ従来通り開催され、学校間交流が活性化してきた。この機会を活用し、研修活動や研究など、他私学との交流をさらに積極的に進めた。	① 新しい授業作りを進めるために、私立小学校連合会の研修活動や他校との交流を積極的に進め、最新の情報収集や教員交流に努める。
	② 本校独自の「おしらせ学習」を一層充実させ、「課題解決学習」、「ESD教育」について研究し、授業実践に反映する。 (「お知らせ学習」の掲示及び保護者説明会)	A		② 「課題解決学習」、「ESD教育」について、研究・成果を校内に掲示するとともに、本校入学を希望する保護者層にも充実を図った本校独自の「お知らせ学習」を用いて、広く広報した。	② 本校独自の「おしらせ学習」を一層充実させ、「課題解決学習」、「ESD教育」について研究し、授業実践に反映する。
	③ 新しい時代の指導体制に向け、高学年における教科担任制を確立し、効果的な教員配置を実施し、新しい学校運営組織を構築する。 (校務分掌・担任担当表、検証資料)	A		③ 5・6年生において、教科担任制を完全導入した。また、その成果について検証し、今後の改善を図った。	③ 新しい時代の指導体制に向け、高学年における教科担任制を確立し、効果的な教員配置を実施し、新しい学校運営組織を構築する。

評価項目	具体的目標・方策 及び評価指標 ※（ ）内は評価指標	自己評価結果		評価結果の分析 (評価の観点、理由)	今後の課題・改善方策
11 研究・研修の 推進	④ 各学年での学力定着を強化し、児童の学力向上を図る。タブレットをはじめ、ICTを有効活用した学習の個別最適化を目指す。 (タブレット活用のための研修会、学習アプリの検証、基礎学力定着の強化)	A		④ 児童のさらなる学力向上をめざし、各学年での学力定着を図った。また、タブレットを活用し、個別学習ソフトウェアを有効活用した学習の個別最適化をめざした授業実践を研究している。	④ 各学年での学力定着を強化し、児童の学力向上を図る。タブレットをはじめ、ICTを有効活用した学習の個別最適化を目指す。
	⑤-1 授業力の一層の向上を図るため、帝塚山大学教育学部と連携し、研究公開授業を積極的に実施する。また教育インターンシップ活動を推進する。 (連携研究授業の実施・インターンシップ活動の充実)	A	A	⑤-1 帝塚山大学教育学部の授業見学やインターンシップ活動を通して、両校が連携を深めると共に、授業力のより一層の向上を図るため、校内公開授業を積極的に実施した。	⑤-1 授業力の一層の向上を図るため、帝塚山大学教育学部と連携し、研究公開授業を積極的に実施する。また教育インターンシップ活動を推進する。
	⑤-2 ICTを活用した授業実践について、教育内容・方法等に関する研修を実施する。また、その内容を検証し、問題点を修正する。 (タブレットを活用した授業研究の実施計画及び学習ソフトウェアの充実)	A		⑤-2 ICTを活用した授業実践について、研究授業を実施。活用法や教育内容について検証し、問題点を修正した。	⑤-2 ICTを活用した授業実践について、教育内容・方法等に関する研修を実施する。また、その内容を検証し、問題点を修正する。
12 経営安定化策 の強化	① 費用対効果を十分に考慮した学校予算の精査などの節減対策を推進する。また、学納金の改訂について、検討する。 (物件費の削減、学納金検討資料)	A	A	① 費用対効果を十分に考慮した学校予算の精査などの節減対策をさらに推進した。	① 費用対効果を十分に考慮した学校予算の精査などの節減対策を推進する。また、学納金の改訂について、検討する。
	② 教員の健康管理を徹底し、教員組織の適正を図り、人件費の削減を進める。 (メンタルヘルスケアの実施、人件費削減)	A		② 教員の心身の健康管理を啓発。相談しやすい雰囲気作りを進めると共に、教員組織の安定を図った。	② 教員の健康管理を徹底し、教員組織の適正を図り、人件費の削減を進める。

3. 学校関係者評価

学校関係者評価実施日：令和7年4月22日

学校関係者評価委員会委員：育友会副会長（2名）、帝塚山大学教授、帝塚山幼稚園園長

意 見	改 善 方 策
① 学園内連携を深め、中学校への内部進学率を向上させてほしい。特に、内部生を大切にしていきたい。	① 幼稚園から大学・大学院まで揃う総合学園であり、しかも、同じ敷地内に集まっていることは大きなメリットであります。これを活かし、日頃から学園内連携には力を注いでいます。少子化といわれる中において、内部からの進学者に来ていただくことは、学園経営の面でも、大変ありがたいことです。このような考えは、学園内各校園にも浸透し、内部を大切にしていける環境が整ってきています。今後もより一層学園内連携に努めていきます。
② SNSを積極的に活用し、学校の認知度を上げるとともに、在校生の保護者への安心感を高めてほしい。	② 情報化の進む今日、SNSをはじめとするネット媒体を通じての広報活動の効果は、大変大きくなってきました。これを踏まえ、本校では令和6年度1年間をかけて、ホームページと学校要覧の全面改訂を進めてきており、ようやくこの4月から運用を開始することができました。さらにInstagramによる教育活動の紹介も進めており、学校の認知度を向上させることに大きく役立つものと考えております。これにより、現在在籍しておられる保護者の皆様にも、安心できる情報を随時お届けできるものと確信しております。
③ 日常の英会話ができるように、より英語教育に力を入れてほしい。	③ 国際理解に繋がる英語教育は言語学習としての位置づけも大切ですが、まずはコミュニケーションツールとして、いかに自由に使うことができるかが重要です。そのため、本校では必ずネイティブ教員が授業を担当するようにして、児童とネイティブとのハードルを下げるように努めています。また、国内留学の機会を活用し、児童が英語による会話をさらに楽しめるように実践していきます。
④ 子どもたちの多様性が認められるような学校運営、学級運営を希望。教員の研鑽もお願いしたい。	④ 「多様性の時代」といわれる今日、それを認め合い、助け合う姿勢が重要になってきます。本校では、道徳の授業をはじめとする人権教育には力をいれています。これからも、道徳の授業はもちろんのこと、日頃の学級指導においても、人権を尊重する姿勢を指導していきたいと思います。また、その指導を充実させるためにも、教員の研修を積極的に進めていきます。
⑤ 本物に触れる機会を重視した教育活動を持続してほしい。	⑤ 本物に触れ、実際に体験することは、何よりも大きな経験となり、学習意欲や効果の向上に繋がるだけでなく、近年重要とされている非認知能力獲得にも大きく影響するものと考えています。本校では本物に触れる学習を進めるため、授業内容にも十分配慮するほか、夏合宿や体験授業を充実させることを進めてきております。これからは特に自然や環境問題も採り入れた教育活動を進めることで、これからの時代を生きぬく子ども達の力を育んでいきたいと考えています。